

2009 年度 シンポジウム活動

《テーマ》 ASEAN+3 諸国における人間の安全保障シンポジウム

「女性と貧困の撲滅」

【国際専門会議】

開催日 2009 年 11 月 22 日、23 日

会場 東京

参加国 ブルネイ・ダルダラーム/カンボジア/中国/インドネシア/日本/韓国/
ラオス/マレーシア/ミャンマー/シンガポール/タイ/ベトナム

会議概要 国際専門家会議では、各国で女性の貧困根絶や暴力撤廃についての努力が粘り強く行われ、一定の進展をみていることが、政府、NGO 双方から具体的に報告された。しかし、ジェンダー平等や女性のエンパワーメントなどの目標達成にはほど遠く、今後とも、企業、研究教育機関、地域共同体などとも連携して、共同で努力することを継続させることの重要性などを盛り込んだ「勧告」が採択された。

※各国代表のゲストスピーカーの要旨は別紙参照

【公開フォーラム】

開催日 2009 年 11 月 24 日

会場 昭和女子大学 人見記念講堂

基調報告 前 ESCAP 社会および女性問題担当部長

Thelma Kay

概要

ご紹介ありがとうございました。坂東学長、それから日本の未来の女性のリーダーの方々、こんにちは。今回この昭和女子大学で開かれている公開フォーラムに来ることができ、大変うれしく思っております。日本には旧知の人々も多く、そういった方たちの顔が今回このステージの上、この会場の中にも見えます。私自身はアジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) の社会問題部の部長をしておりましたので、いろいろなネットワークが日本にもあります。

さて、今回の会議ですが、非常にタイミングよく開かれていると思います。といいますのも、私たちは世界的な金融危機から、今ちょうど立ち直ろうとしています。そして、これから先私たちはどのように成長しようかと考えているわけです。アジアという地域は今成長し、そしてこれから世界の経済を牽引するドライバーだといわれています。この中でアジアの女性というのはどういう状況にあるのでしょうか。

最初にアジア太平洋地域における女性の地位について、特にミレニアム開発目標に関して

どのような状況にあるのかということについてお話します。この MDGs と呼ばれるものの目標は、開発に関して世界的に使われる基準となっております。最新の ESCAP/ADB/UNDP のレポートが、この MDGs の開発状況についての内容を示しております。

まず、金融危機の前、この地域は非常に大きな進展を見せておりました、もともこの MDGs は、2015 年までに目標線を達成するというようになってはいるわけですが、その中でもう既に幾つか達成しているものもこの地域にはあります。その達成しているものとしては、まず初等教育・中等教育における男女間の差をなくす。オゾン枯渇物質の消費を削減する、そして安全な水を手に入れることができない人たちの数を半分にするというこの三つについては、もう既に達成しております。

また、2015 年の目標線は、オン・トラックということで、スケジュールどおりに進んでいるものです。

初等教育に関しては 100% 子供たちを就学させます。

それから、1 日 1 ドル 25 セントの貧困レベル以下の人たちの人口を半分にするというものです。90 年から 2005 年にかけて、1 ドル 25 セント以下の収入しか得ていない人たちを、10 億人から 9 億 7900 万人に減らすことができました。これはつまり約 1 億 2000 万人の人たちが貧困ラインから抜け出したということになります。しかし最低貧困ラインで見ますと、つまり 1 ドル以下の人たちというのがなお 3 億 5000 万人ぐらいいるということになります。

しかしながら、現在アジアにおきましてはまだまだ多くの女性が貧困に苦しんでおります。そして、現在貧困ライン以下で暮らしている人たちの数、2010 年度では約 1900 万人の人たちがいます。これはほとんどオーストラリアの人口と同等です。

また、妊産婦死亡率も一つ問題になっております。世界の妊産婦死亡率の半分の年間 25 万人というのは、実はこの地域で発生しております。これをちょっと図表にして考えていただきますと、非常にショックなものになると思うのですが、毎日 5 機分のジャンボジェットに乗る人数が、子供を産むということに関連して死亡しているのだということを考えてみてください。恐ろしいことだと思います。

また、貧困というのにはたくさんの、多面的な側面があります。これは実は経済的なショックであるとか、食品とか燃料費の高騰であるとか、気候変動、国内紛争、高齢化、人権であるとか権利をきちんと享受できないといったようなさまざまな問題がこの中にはあります。さらに、男女間の平等がきちんと得られないということもここに含まれます。

それでは、今から女性と貧困ということに的を絞ってお話をしてみしましょう。男女ともに危険であるとか、脆弱性であるとか、危機ということに対して、違った対応をするものです。女性はマクロ経済とか、法律とか慣行の中で、しばしば差別的な扱いを受けてしまいます。

また、移民であるとか、身障者であるとか、先住民であるとか、より高齢者であるといったような、女性の中のサブグループといわれるような人たちは、さらに大きな問題を抱えることになります。

だからこそこで実践される政策というのは貧困者のための、そしてまたジェンダー問題により身近なものとして設定されなければなりません。例えば基本的な社会サービスに関しては、それを使うという意味でコストを回収するとか、使用の料金を取るといったことは最低限にしなければなりません。それからまた、金融規制緩和であるとか、貿易の自由化といったものによって、悪影響が及ばないように考えていかなければなりません。

それでは、このジェンダーに関係する政策について、少しお話をしてみましょう。例えば、女性は賃金の払われていないケアをするということも認識されなければなりませんし、社会サービスに女性がかかわることも多いこともあります。

ここには三つの側面があると思います。まず、きちんと能力を持つということです。これは教育とか、スキルとか、健康とか、日本では全員が手に入れているもので、幸せなことだと思います。

続いてチャンスを手に入れる、それからまた資源を手に入れるということがあります。女性も男性と同じように、資産であるとか資源、例えば土地とか、家とか、収入とか、それから就業の機会を得られなければなりません。

3番目が安全保障に関するもので、危険とか、それからまた脆弱性に関係してきます。この安全保障の中には女性に対する暴力が入ってきます。これは富める国、貧しい国両方に現在ある問題です。

最近またこのような複雑な問題に対して、幾つかの側面がさらに追加されました。女性に対する暴力というのは決して家庭内の話だけではなく、公的な懸念としてとらえられなければならないと今日ではいわれております。なぜならば、女性に対する暴力は人権に対する侵害であり、また、このような暴力を振るう人というのは刑罰に処されなければならないと私は思うからです。

もちろん国によっていろいろな対策が取られています。新しい法律を施行するとか、国家として女性に対する暴力に対応する計画を作ったり、シェルターを作ったり、また国家的な委員会、警察、医療関係者、司法関係者、メディア、市民団体といった人たちを巻き込んでいろいろな活動が行われております。

しかしながら、こういった対策がどれだけ効果があるか、継続して、こういった結果が出たかを常に私たちはモニタリングしていかなければなりません。実際ここ2日間、専門家会議で、私たちは各国でどんなことが行われているかに関して情報共有をいたしました。そうすることによって、どんなことが成功していて、どんな欠点がこういった計画にあるのかということをお互いに学び合うことができたわけです。

最後になりますが、三つの主要なメッセージを皆さま方にお伝えしたいと思います。

1 点目として、この地域は非常に大きな進化をしました。しかしながら、貧困と、それから MDGs に関しては、まだ達成していないものがあります。先ほどのジャンボジェット 5 台分ということをおもって思い出してください。

2 番目に、貧困というのは多面的な問題を持っているということです。従って貧困者に優しい、そしてまたジェンダー問題をきちんと理解した政策と行動計画が必要です。

3 番目に、女性に対する暴力は、家庭内のものではありません。これは権利の侵害であり、そして刑罰によって処すべきで問題あるということです。そして、これに対しては包括的な、複数の関係者を交えた、つまり皆さん方や私などを交えた行動をしていかなければならないということです。



国際専門会議の様子